

府立茨木支援学校



テーマ:PDCA サイクルを活用した授業改善 ～明日の授業を今日より良いもの～

概要

「主体的・対話的に深く」学びあう、校内の授業改善の推進

学習指導要領の改訂にともない、今求められている授業を実現するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた校内の授業改善の推進について取り組みました。小学部「国語・算数」、中学部「総合的な学習の時間」、高等部普通課程「保健体育」、高等部生活課程「数学」の4つの研究授業・研究協議を中心に「より良い授業」にするにはどうするかを考えるとともに、日々の授業をチームで改善する取り組みとして「授業改善期間」を設定することで、校内の授業改善を推進しました。

実施スケジュール

Research

4月下旬

管理職、研究部、担当指導主事等、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

5月16日(木)

全体会 (1)

テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

7月22日(月)

全体会 (2)

テーマ「学習指導案の作成について」

Plan

7月下旬～

学習指導案の作成・検討

Do

11月1日(金)

事前授業・授業後の協議 (1)

11月20日(水)

事前授業・授業後の協議 (2)

11月22日(金)

事前授業・授業後の協議 (3)

12月13日(金)

研究授業・研究協議

9月～1月末

授業改善期間

2月17日(月)

授業改善期間総括

Check & Act

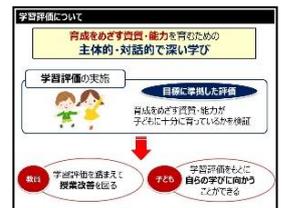
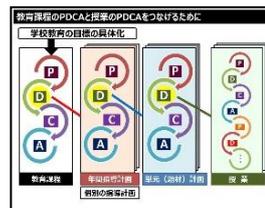
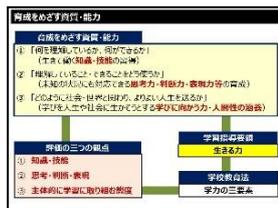
2月下旬

アンケート集約

全体会 (1)

5月16日(木) 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

支援教育推進室指導主事より



学習指導要領の改訂を主軸に、子どもたちがこれからの社会を生きていくうえで必要となる資質や能力とは何か、また、それらの資質・能力を育む授業づくりの在り方について講義や演習を通して考えました。

(資料は抜粋)

全体会 (2)

7月22日(月) 「学習指導案の作成について」

支援教育推進室指導主事より



日々の指導計画の活用について、「チーム・ティーチング」と「指導略案」の視点から考えました。各自が持ち寄った指導略案をもとに、チーム・ティーチングの在り方を含めて班別協議を行い、効果的・効率的な授業の在り方について理解を深めました。また、研究授業に向け、学習指導案の作成手順について講義を通して確認しました。

(資料は抜粋)

研究授業(1)

学年・教科： 小学部1、2年 「国語・算数」(ことば・かず)
 単元名： 「絵本に親しもう / 数を数えよう ～はらぺこあおむし～」

「個別課題の工夫と授業構成」

研究協議のポイント 興味・関心の幅を広げることに着目し、個に応じた課題の作成を行い、主体的な活動を引き出すことができたか、また、8つの学習ステップ(①【アイスブレイク】②【見通す】③【出会う】④【つかむ】⑤【感じる】⑥【たしかめる】⑦【伝え合う】⑧【まとめる】)を取り入れ、活動に対する見通しを持たせることができたか、について協議しました。

研究授業(2)

学年・教科： 中学部1年 「総合的な学習の時間」(総合)
 単元名： 「世界の祭り ～シークレットサンタ～」

「他者への意識と気持ちの伝え合い」

研究協議のポイント ゲーム性のある活動や全体での発表などの集団活動を通して、友だちや教員など他者への意識をどのように高めていくか、また、生徒自身の気持ちや内面の表出を促すために ICT 機器や絵カードなどをどのように工夫・活用できるか、について協議しました。

研究授業(3)

学年・教科： 高等部普通課程1～3年 「保健体育」(運動)
 単元名： 「ティーボール」

「生徒の主体性と達成感」

研究協議のポイント 生徒が主体的に手を動かし、意欲的に活動をするには、どのような補助具を用いるべきか、どのようなルールを設定するべきか、また、自信や達成感を味わわせるためにはどのような授業展開が必要か、について協議しました。

研究授業(4)

学年・教科： 高等部生活課程1年 「数学」
 単元名： 「分数の計算 / 分数ゲームを考えよう」

「活発なグループワークの実現」

研究協議のポイント 分数を活用したゲームを考えるグループでの活動の中で、一人ひとりが意見を出し合い、話し合いがスムーズに進むよう促すにはどのような指導・支援の工夫が必要か、また、グループでの活動を通して、分数を身近に感じ、主体的に分数を学ぶ力を育むにはどのような指導・支援の工夫が望ましいか、について協議しました。

成果

<PDCA サイクルを活用した授業改善実践にあたって>

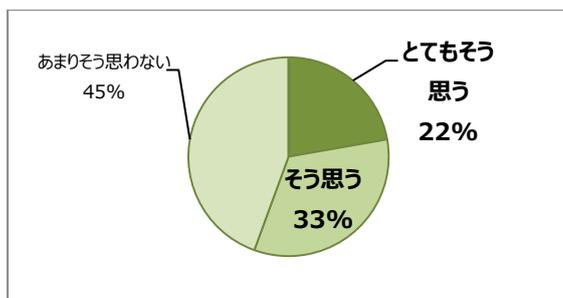
- 授業改善期間を活用し、各授業を担当する教員でチームとなり、授業改善に取り組みました。指導と評価の一体化の視点から、毎回の授業で、設定した目標を達成した子どもの姿(評価規準)を具体的に想定し、その姿を見取ることができたかどうか、見取ることができなかった場合は、なぜ見取ることができなかったのか、授業をどのように改善すれば良いかをチームで考え、次の授業に臨むことが重要であることを改めて共有することができました。

<「主体的・対話的に深く」学びあう研究授業にあたって>

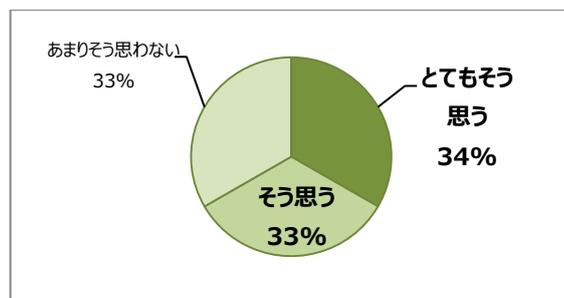
- 4つの研究授業について、「活動内容の設定」や「教材・教具の工夫」、「指導・支援の工夫」について協議し、学びを深めました。研究協議ではグループに分かれ、研究授業の「良かったところ」と「さらに良くするには」という視点で話し合い、グループごとにポスターを作成し、発表し合いました。多面的で多角的な意見を出し合うことができ、これからの授業の工夫・改善の活性化につなげることができました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- 指導略案と情報共有の大切さ、フィードバックへの活用も合わせ、大変参考になったので、活用していきたい。
- 他の先生方の授業の中での重点を具体的に聞くことができ、自分が授業を行うにあたりとても参考になった。児童生徒のその状態に応じた対応ができるように、指導したいことを複数用意することと、避けるべきことを確認することも重要だと感じた。
- 研究協議を「見立て」と「改善策」に絞ったことで、授業へのマイナスイメージが話題の中心になった。良かったところを発表したかった。たくさんあったので。
- どの教科や授業にも大切なポイントが共有できたが、もう少し踏み込んだ協議ができれば、新しい視点や気づきが得られるように思う。教科別にグループを設定する等、専門性の向上、教科目標の趣旨確認等。
- サブティーチャーの意見をいただくことで、自分が気付かなかった視点に気付くことができた。普段からサブティーチャーと児童生徒について共有しておくことが大切だと改めて感じた。こういう機会があることで主担者もサブティーチャーも意識が高まる。